

●プロフィール

1977年、千葉県松戸市生まれ。
上場企業でサービス業を経験し、26歳で実家の会社に戻る。平成22年(32歳)、新会社として株式会社アーデンガーデンを設立。様々な外国旅行を通して、それぞれの街や大自然の風景を五感全体で体感する。その後、自分自身で地域の風景や環境を良くしたい。また、自分の生まれた地域を少しでも住みよい場所にしたいという強い思いから一念発起し、現在に至る。
独自の感性スタイルで外部に限らず、店舗内部の空間デザインも積極的にご提案。



kiichiro ISHIKAWA

石川貴一郎

Green Eyes

座右の銘【温故創新】

伝統技術や歴史的文化を壊さず、自分自身の独自感性を組み込み、お客様のご要望により近い形でお応え出来るプランを創造する。

幼少期に見た景色は自分自身の想い出として残るものである。だからこそ、次世代の子供たちが集う街や家族の憩いの庭を残したい。世代を超えて受け継がれる庭を創造するため模索し、邁進中。

地域の特徴、環境美化、高齢社会それぞれの特性や環境に合わせ、愛着のある空間をデザインする。また、視覚から季節ごとに感じられる空間を多く広げていくのが自分の使命と感じている。日々の生活の中でカメラを持ち歩き、興味深い所や歴史的文化財等を撮影している。オフィスで写真を見ながら造り手の気持ちを考えるのが日課。

Green Fingers

3世代のご家族が住んでも飽きのこないお庭をご提案。春夏秋冬と季節ごとに楽しめるお庭をご提案。家族で集うコミュニティの場(特にお爺ちゃんお婆ちゃんとお孫さんが楽しめる空間)を重視しながらご提案。また、ご家族の思い出(記念)になるものを取り入れるように設計している。プラン計画では、二酸化炭素量やランニングコスト、計画的な地域美化を目標と考え、家を引き立たせるアイテムとして重要視している。

Green Intelligence

近年生活習慣病は、私たちの生活に深く関わりのある病気である。愛読書から『食する園芸治療』(クライナガルデン法)という言葉に触れ、感銘を受ける。さらには、自然界の物に触れると人体に良い影響を与える(自然界の映像や自然音を40分鑑賞するだけで歴然と癌の進行を抑制する)という事例を読む。庭づくりを通じて、デザイン性、癒しの空間というだけでなく、「人体に良い庭」をコンセプトに今後自分の住む地域をより活性化出来る経営方針を模索し、邁進する所存である。



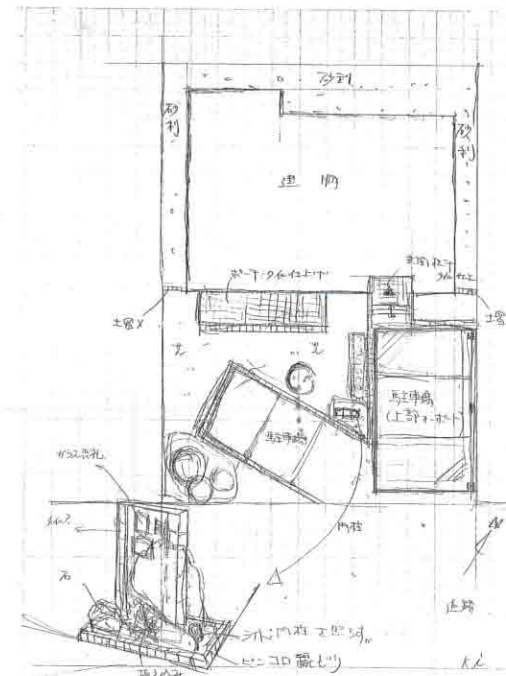
楽しい空間

個人宅の門柱。光の演出。

硝子とブロックと緑、そして光。素材の特徴を考え、上手に組み合わせることができれば、そこから説得力や存在感生まれる。何気ない暮らしの中にそれを見出せれば、日々の生活も楽しく感じられる。同じ時を過ごすならできるだけ多く楽しい時間を過ごして頂きたい。

お客様がいらっしゃって、まず目にするのが門柱。清潔感があり、多機能、昼と夜ではまた違った表情の趣あるデザイン。疲れて帰って来た施主様を心地よく出迎えてくれるかどうか大事な役割の一つ。少しでも心暖まる門柱が出来れば、そんな思いで空間づくりをご提案。

所在地:埼玉県三郷市・個人宅
規模(施工面積):約184㎡





Front Exterior



当社ショールーム 豊かな緑を

自社敷地内。イメージは南太平洋に浮かぶ島々。
 自社が活動拠点としている千葉県は、関東地方の中でも暖かい気候を持つ土地。それはもしかすると九十九里海岸や房総半島の南に位置する、館山地域を想像するかもしれない。自社のある街は内陸ではあるが、そこにいきなり現れるココスヤシの樹が、南国ムードを醸し出し周辺地域のランドマーク的な役割を果たしている。
 私は生まれ育った千葉県が大好きである。そのわが街も自分の幼少時代に比べると都市開発等により緑がだいぶ減ってきた。
 さらに、地球規模で見るとかなりの勢いで緑が少なくなっているのは間違いない。近年世界で異常気象の一因でもあると思う。いきなり個人の力で「地球全体を何とかする」というのは無理があるかもしれない。一朝一夕に世界が変わるわけではない。だが、自分たちが生まれ育った街や今現在活している街から少しずつ緑を残していきたい。
 その強い思いから豊かな緑を育む一環とし、手始めに自社のショールームを緑あふれるものにした。

所在地: 千葉県松戸市・当社ショールーム
 規模(施工面積): 約280㎡



飲食店 自然と付き合う

店舗経営をされている施主様からのご依頼。内容は和風の建物・室内から外を見た時に開口部から見える景色が寂しいので何か考えて欲しい、とのこと要望。条件は「前面道路からの視線が気になるので考慮する」、その他の内容はこちらにおまかせ頂けるとのこと。

建物の周囲は東京近郊の土地ではあるが自然が広がっている。その部分だけ見れば風光明媚な光景が存在する。個人的にはその風景も悪くはない。しかし、今回は前面道路からの視線が気になるので竹垣で遮りあえて坪庭風にした。

石は真壁石(天然の物)。水鉢は、陶器の鉢を用い、まるで小さな噴水を思わせるかのように加工した。噴水の力が溢れ、こぼれ落ちる様子から清涼感と心地よい癒しを感じていただく。また、お店のアクセントとしてご提案した。竹は天然の物を使用。自然の風合いがより一体感をもたらした。内側からはまるで壁画を観賞しているような出来栄となった。

竹垣をつけることにより適度な風を通し、強い光を遮断することができる。デザイン性だけでなく、四季折々の環境と調和し、過ごしやすさにも一役買っている。

季節ごとに窓に映し出される風景はそれぞれ趣があり、外を眺める楽しみとなって欲しい。

所在地:千葉県流山市・店舗
規模(施工面積):当該坪庭部分 約5.5㎡ 敷地 約330㎡

